

“MY TOWN” うおっちゃん

# 歩 & 目 定ラテス

Vol.94

四国唯一の本ウダツ建築・  
高田鍼灸院  
(八幡浜市)

岡崎 直司

タウンツーリズム講座主宰・  
近代化遺産活用アドバイザー

“ウダツ”という言葉聞いて、あああれかと分かる人は何割くらいだろう。税とも卯建とも書くが、常識の範囲に入れるには若い人には酷かも知れない。“うだつが上がらない”という諺もあるが、これとて世代によつてはもはや死語に近い部類に違いない。取り上げるのは、建築様式としてのウダツ。

さて、前置きが長くなったが、中四国、九州では大変珍しい“本ウダツ”の建物八幡浜に一軒ある。いや実は間もなく「あつた」ということになるので、残念ながらここに記録する。場所は市内でも人家が密集する愛宕山下の片山町。昭和7年頃に建てられたというこの2階建ては、元々腕効きの左官だった矢野武

木の家として建てられた。道を挟んで今も稼業されている高田建設さんは、かつて左官業として県内ではつとに知られた存在。その高田左官の先々代鶴一郎氏が大阪に行った際、目にした本ウダツの建物を設計し、その兄弟筋に当たる矢野武木が施工したという事らしい。

裏通りに面しているため、市民でも知らない人が多いと思われるが、愛宕山から見下ろすとその特異な屋根形状に気が付くハズ。通常の切妻屋根の両端が一段



本ウダツの特徴がよく分かる屋根全景



一階部分は袖ウダツ

高くなっている、これが“本ウダツ”。つまりは防火建築の一種なんだが、京都辺りでは町家が櫛比していて、古くは有名な洛中洛外図にも描かれている建物の類焼を防ぐ形。このタイプの分布エリアは近畿及び中部地方。なのでどういふ訳か四国には存在しない。いやいや内子町や卯之町、あるいは「うだつの城下町」で有名な徳島県脇町にはあるじゃないか、という向きはかなりの町並み通。でもそれらは皆“袖ウダツ”という文化圏。類焼を防ぐというよりは、ある種の威勢や装飾性に重きが置かれる。

四国の文化には無い本ウダツが、高田鍼灸院（旧矢野家）のみは前述の経緯によつて八幡浜にたまたま出現した。そうした外観のみならず、内部にも見どころが多い建物なのでご紹介したい。

玄関を入ると、一枚板の上がり櫃（がまち）がまず目に留まる。いや気付かず